K１、Kids2 について

2026/27 シーズン県内 SAN 公認大会

1/30-31　　栂池　GS×２

2/13-14　　白馬　GS×１、SL×１

2/23　　野沢　GS×１

3/6-7　　戸隠　GS×１、SL×１

3/18-19　　志賀　GS×１、SL×１

3/20　　小賀坂　GS×１

＊5、６年生のスタート順はシリーズ戦ランキング 10 位までを第１シードとしてドローする
　それ以降はオールドローする（県外選手も含める）

＊戸隠は JOC ジュニアオリンピックカップの種目別ランキングを決める大会となるため
　県外選手は第３シードとして最後にドローする

＊3、４年生はフリードローとする（開催地にドローの方法は一任する）

シリーズ戦

＊順位ポイントをつけて、K1、Kids2 の男女 3 位までを表彰する

＊表彰は、志賀小賀坂杯の最終レース終了後に行う予定。

＊対象レースは 5、6 年生全レース、3、4 年生は白馬、野沢、志賀の GS 3 レース最終順位が同点の時は志賀の GS を優先する

＊シリーズ戦の結果に基づき、リーダービブの着用は行う（初戦以外全 SAN 公認レース）
各カテゴリーにおいてリーダーが欠場の場合は、該当選手無しとしてそのカテゴリーのリーダービブの着用はしない

＊ポイント：1 位 20 点、2 位 9 点、3 位 8 点、4 位 7 点・・・10 位 1 点、以下 0 点

ジュニアオリンピック予選

＊GS：栂池２戦目、白馬、野沢、戸隠の男子３位女子２位までが出場決定

＊SL：白馬、戸隠の男子３位女子２位までが出場決定

＊上記を踏まえて戸隠のレースで出場者とランキングを決める

＊ランキング決定の際、勝ち抜けした選手複数人が戸隠のレースをゴールしなかった場合、
それまでの公認大会の成績を勘案して K1 正副主任の協議にて決定する

＊GS、SL 共に本戦参加枠を基準にしたポイントを付与しそれを踏まえて本戦参加選手を決定

＊ポイントが同点の場合は戸隠 GS で成績の良い選手を優先する

＊本戦出場選手は両種目とも共通の選手が出場する予定

＊参加人数はまだ連絡がないためわかり次第ホームページ等で連絡する

＊いずれかの種目で戸隠のレースがキャンセルの場合は下記のレースで選考する

＊GS は野沢、SL は白馬が選考レースとなる

＊GS 野沢が中止の場合は GS 白馬を採用

＊GS 白馬も中止の場合栂池２戦目を採用

＊SL は白馬も中止の場合 GS の順位のみで決める

冬季練習会

＊戸隠にて 1 月 23・24 日に練習会を予定しています。(確定次第、県連ホームページに UP)

その他

＊スキーの板は SAJ ルールに準ずる

＊スキー用具に係る国内運用規定について

http://saj-wp.appmlj.com/wp-content/uploads/fb9c7165f2996e658622b5443da2807a.pdf

＊全ての選手が安全に競技を行える様、コーチ・保護者の皆様の安全な用具選択を訴求いたします。

	GS	SL
K1	FIS ステッカー[RH2013]が明示されているヘルメットの着用を義務とし、DH、SG、GS 競技に適用される。メーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。	ヘルメットの耳部分のソフトパッドの使用を認める。*SAJ 特別規として SL の FIS 規定については推奨とする*SAN K1 としてメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。
Kids2	レーシングヘルメット(頬までプラスチック素材で覆われたもの)を推奨とする。	K 1 カテゴリーに準ずる。

(K1：5、6 年生　Kids2：1、2 年生　Kids1：1、2 年生)

＊大会や練習会においてTDや大会関係者から注意があった点

・ヘルメットに突起物のついた選手がいた

・ゴーグルにリフト券ホルダーをつけて滑っている選手がいた

・ワンピースからフードやリフト券ホルダーの紐などが出たまま滑っている選手がいた

・ブーツのバックルが外れたままスタートしようとする選手がいた

上記は怪我のリスクが高くなり、大会の運営上スタートの遅延などの原因となるため絶対におこなわない

＊追加ルール

・ICR 614.2.3 競技者が止まった後の継続禁止

競技者が完全に止まった場合（例：転倒）その競技者は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。

≪シングルスラローム競技における通過の定義≫

・ICR804. 3　アウトサイドポールがない場合は、**スラロームの通常のレースラインに沿って、ターニングポールからターニングポールまでの架空の線を越え**、両足とスキーの先端がターニングポールの同じ側を通過しなければならない。もし 競技者が、ポールをまたぐなどの失敗をしていないにもかかわらず、片方のスキーを失った場合、残ったスキーの先端と両足が、両方の条件を満たさなければならない。外側のポールがある場合（最初と最後のゲート、ディレイドゲート、コンビネーション（ヘアピン、バーチカル））は、第 661.4.1 条が有効である。

http://www.ski-japan.or.jp/game/69621/

・フッ素ワックスの使用禁止

フッ素ワックスの使用禁止並びに検査の実施が適用されています

詳細は下記サイトを確認ください

http://www.ski-japan.or.jp/game/69661/

・FIS のルールに適応する大会に関して

FIS ルールが適応される国際大会等に関しては、（耐切創性アンダーウェアパンツ（タイツ）の使用は、すべての FIS アルペンスキーイベントにおいて義務付けられる。義務化された導入においては、腸骨稜（骨盤の上のライン）からスキーブーツの履き口までの間のすべての場所で、FIS-DITF テスト基準に従った最小 3 つ星の保護レベルが必要となる。耐切創性シャツまたはフルスーツの使用も強く推奨される。）

と、明記された為国際大会参加者は対応。

＊わかりにくい部分もあるため各コーチから説明を聞いてください

K1 役員

主任	重野将人
副主任・北信 A ブロック主任・エントリー主任	里野寛太
副主任	村越雄太郎
北信 B ブロック主任	塩田大喬
北信 C ブロック主任	嶋田健人
東信ブロック主任	小林隼也
中信ブロック主任	久山敏雄
南信ブロック主任	重野将人

問合せ先：K1 主任　重野将人

Tel：080-2347-1181